

第49課：尊敬語

尊敬語是用來「抬高對方或第三者」的說法。說話者不是把自己講得更有禮貌就算，而是把值得尊重的人，例如上司、老師、顧客、客人、長輩的動作講得更高。第41課學過授受句中的「くださいます」，今課把尊敬語系統整理清楚。

今課集中處理三件事：お + ます形 + になります、常用專用尊敬語，以及只需辨認のお + ます形 + です 和 お + ます形 + ください。第50課才正式學謙讓語，也就是降低自己一方的動作，所以今課不要把兩套系統混在一起。

■ 今課目標

- 明白尊敬語是抬高對方或第三者的動作，不是降低自己。
- 用 お + ます形 + になります 表達對方的動作。
- 記住常用專用尊敬語：いらっしゃいます、召し上がります、ご覧になります、なさいます、くださいます。
- 辨認 お + ます形 + です 和 お + ます形 + ください 的尊敬用法，但不把它們變成主要產出句型。
- 分清第49課尊敬語和第50課謙讓語的範圍。

一、尊敬語的視角

■ 尊敬語抬高的是對方的動作

尊敬語常用於講上司、老師、客人、顧客、長輩等人的動作。句子的主角通常是值得尊重的人，說話者把那個人的動作講得更有禮貌。自己的動作如果要謙遜地講，屬於第50課，不屬於今課主要產出範圍。

第49課和第50課的分工

課次	焦點	例子
第49課 尊敬語	抬高對方或第三者的動作	先生が話されます。／先生がお話になります。
第50課 謙讓語	降低自己一方的動作，藉此尊重對方	自己的動作在第50課處理

■ 例句

1. 先生は二時に学校へいらっしゃいます。
→ 老師兩點會來學校。句中抬高的是老師的動作。
2. 社長は会議室で資料をご覧になります。
→ 社長會在會議室看資料。句中抬高的是社長的動作。
3. お客様はロビーでお待ちになります。
→ 客人在大堂等候。句中抬高的是客人的動作。

■ 練習

一、判斷以下句子較適合用『尊敬語』還是『第50課謙讓語』處理。只寫類別。

- ① 講老師會幾點來學校。 → _____
- ② 講自己會去老師辦公室。 → _____
- ③ 講客人正在等候。 → _____
- ④ 講自己會看老師的資料。 → _____

二、主要句型：お + ます形 + になります

■ 用固定敬語框架抬高對方的動作

很多動詞可以放入 お + ます形 + になります。這裡的 ます形 是這個尊敬語句型需要的固定材料，不代表所有動詞變形都要由 ます形 出發。先確認這個動作是對方或第三者的動作，再使用這個框架。

■ 形式規則

お + ます形 + になります

1. **第一步**：確認動作屬於老師、上司、客人、顧客等需要尊重的人。
2. **第二步**：取動詞的ます形，再去掉 ます。
3. **第三步**：前面加 お，後面加 になります。

例如：読みます 的 V.ます 是 読み，所以變成 お読みになります。

常見 お + ます形 + になります

普通禮貌說法	尊敬語	意思
読みます	お読みになります	讀
待ちます	お待ちになります	等候
帰ります	お帰りになります	回去
使います	お使いになります	使用

這個句型主要用於和語動詞，例如 読みます、待ちます、帰ります、使います。遇到有專用尊敬語的動詞，要優先用專用說法。

■ 例句

1. 校長先生は毎朝新聞をお読みになります。
→ 校長每天早上看報紙。
2. お客様は受付の前で少しお待ちになります。
→ 客人會在接待處前稍等。
3. 部長は今日は六時ごろお帰りになります。
→ 部長今天大約六點回去。
4. 先生はこの教室をお使いになります。
→ 老師會使用這間課室。

■ 練習

二、用 お + ます形 + になります 改寫。提示中的動作都屬於要尊重的人。

- ① 校長先生は新聞を読みます。 → _____
- ② お客様は受付で待ちます。 → _____
- ③ 部長は六時に帰ります。 → _____
- ④ 先生はこの教室を使います。 → _____

三、専用尊敬語要優先記

■ 常用動詞不用硬套 お + ます形 + になります

日常敬語中，有些動詞常用専用尊敬語。見到 行きます、来ます、います、食べます、飲みます、見ます、します、くれます，不要先硬套一般句型，應該優先使用課本整理的專用說法。

第49課常用専用尊敬語

普通禮貌說法	尊敬語	用法提示
行きます／来ます／います	いらっしゃいます	講對方去、來、在
食べます／飲みます	召し上がります	講對方吃、喝
見ます	ご覧になります	講對方看
します	なさいます	講對方做
くれます	くださいます	講對方給我或我方某物、幫我方做某事

■ 例句

1. 先生は来週京都へいらっしゃいます。
→ 老師下星期會去京都。
2. お客様はレストランで昼ご飯を召し上がります。
→ 客人會在餐廳吃午飯。
3. 社長は新しいパンフレットをご覧になります。
→ 社長會看新的小冊子。
4. 山田先生は大学で日本語を教えてくださいます。
→ 山田老師會在大學教我們日文。

■ 練習

三、選擇合適的專用尊敬語，改寫整句。

- ① 先生は事務室にいます。 → _____
- ② お客様はコーヒーを飲みます。 → _____
- ③ 社長は写真を見ます。 → _____
- ④ 課長は明日の予定を確認します。 → _____
- ⑤ 先生は私たちに漢字を教えてください。 → _____

四、只作辨認：お + ます形 + です / ください

■ 見到要認得，今課不用大量作文

お + ます形 + です 常用來講對方的狀態或正在做的動作，例如 お待ちです。お + ます形 + ください 是請對方做某事的尊敬請求，例如 お入りください。這兩種今課先作辨認，不作主要產出要求。

辨認級尊敬表現

形式	常見意思	例子
お + ます形 + です	對方正在或已經做某動作	先生はロビーでお待ちです。
お + ます形 + ください	請對方做某動作	こちらにお入りください。

■ 練習

四、辨認句子意思。選『對方動作的尊敬描述』或『請對方做某事』。

- ① 先生はロビーでお待ちです。 → _____
- ② こちらにお入りください。 → _____
- ③ お客様はもうお帰りです。 → _____
- ④ この紙にお名前をお書きください。 → _____

五、受身形尊敬語只需認得

■ 外形像受身，但意思不是第37課的被動

有時會見到 先生が話されます、社長が来られます 這類用受身形表示尊敬的句子。今課只需要知道它可以是尊敬語，不要把它和第37課『受到別人的動作』混在一起，也不用把它當成主要作文形式。

受身形尊敬和第37課受身的分別

讀法	焦點	例子
第49課辨認級尊敬	抬高老師或上司的動作	先生が話されます。
第37課受身	某人受到別人的動作或影響	私は先生にほめられました。

■ 常見錯誤

- **×** 私は先生にお話になります。
○ **先生がお話になります。**
お話になります 是抬高老師的動作。若講自己對老師說話，屬於第50課謙讓語，不是今課產出範圍。
- **×** 先生は資料をお見になります。
○ **先生は資料をご覧になります。**
見ます 有專用尊敬語 ご覧になります，通常不用一般 お + ます形 + になります。
- **×** お客様はコーヒーをお飲みになります。
○ **お客様はコーヒーを召し上がります。**
食べます、飲みます 常用專用尊敬語 召し上がります。
- **×** 先生が話されます。一定是第37課受身
○ **可以是尊敬語，意思是老師說話**
受身形有時可作尊敬表現。判斷時看主語是不是要尊重的人，句子是否在抬高那個人的動作。
- **×** 第49課要學 お／ご + 動詞 + します
○ **這是第50課謙讓語範圍**
尊敬語抬高對方，謙讓語降低自己一方。兩者功能不同。

自己輸出：寫三句尊敬語。第一句用 お + ます形 + になります，第二句用專用尊敬語，第三句自由寫一位老師、上司或客人的動作。每句圈出被抬高的人。
